

病害虫発生予察情報予報第 8 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	11月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
オオムギ	網斑病	やや多	多	131~132	 特 ^レ シトビムシによる被害
	縞葉枯病	やや少	並	135~136	
	斑葉病	並	並	130	
コムギ	シロトビムシ類	やや少	並	137	
	縞萎縮病	並	並	135~136	
特記事項 1. シロトビムシ類 常発圃場(コムギ、ハダカムギ等)では、種子粉衣または塗沫処理を徹底する。					
麦類全般	特記事項 1. 種子伝染性病害(オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病及びオオムギ斑葉病) 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。				
大豆	特記事項 1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。				

作物名	病害虫名	11月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫(抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(本圃)	ハダニ類	並	やや少	205~206	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	195~197	
	アブラムシ類	やや多	多	210~211	
特記事項 1. ハダニ類 天敵(カブリダニ類)の放飼は、有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に行う。 2. うどんこ病 一部の圃場で発生が認められる。約10~14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。					
トマト	コナジラミ類	やや多	並	149~151 225~227	
	ハモグリバエ類	やや多	多	158~159 229	
特記事項 1. ウィルス媒介虫(コナジラミ類・アザミウマ類) ウィルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。					

作物名	病虫害名	11月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	並	やや少	175~176	 ミナキイロアザミウマ
	うどんこ類	やや少	並	173~174	
	褐斑病	やや多	やや多	178~179	
	アザミウマ類	並	やや多	152~156 187~188	
	コナジラミ類	並	並	186~187	
特記事項 1. ウイルス病媒介虫（ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ） ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する（平成28年9月12日付け病虫害対策資料第11号参照）。					
ナス	アザミウマ類	並	多	238~239	 ミナキイロアザミウマ
	コナジラミ類	並	並	239~240	
	ハモグリバエ類	やや少	並	240~241	
特記事項 1. すずかび病 本病の発生を認めた場合、ダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。					
タマネギ	ボトリチス葉枯症	並	並	280~281	
	ネギアザミウマ	並	やや少	287~288	
特記事項 1. べと病 本圃での発生を抑えるために、苗床での防除徹底と本圃移植後から防除を行う。 2. 苗床での軟腐病・疫病等 本年、苗床でこれら病害の発生が多い。各圃場での病原菌を確認し、登録農薬の散布や罹病株の抜き取りなど各病害に応じた適切な対策を行う。					

作物名	病虫害名	11月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
野菜・花き共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ・オオタバコガ)	多	多	160, 162 仔ゴ: 208~209 ナ: 243~244 ト: 229~230 ア: 320, 323 ク: 387~388	
		注意報第2号を参照			
特記事項 1. 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が落ちるので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。特にオオタバコガは薬剤がかかりにくい新芽や花蕾に食入するので、よく観察して初期防除を徹底する（平成28年9月28日付け病虫害発生予察注意報第2号及び平成28年10月14日付け病虫害対策資料第15号参照）。 2. 施設開口部に防虫ネットを被覆し、成虫の侵入を防止する。また、施設周縁部に遮断溝（中に水をためる）を設けて幼虫の侵入を防ぐ。 3. 訪花昆虫を利用する場合には、薬剤の選択に注意する。					

作物名	病虫害名	11月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや少	やや少	380～381	 アザミウマ類
	アザミウマ類	やや多	多	384～385	
	アブラムシ類	並	並	386～387	
	ハダニ類	並	並	385～386	
	ハモグリバエ類	やや少	並	388～389	
	チョウ目害虫	やや多	多	387～388	
		注意報第2号を参照			
特記事項 1. アザミウマ類 一部でクロゲハナアザミウマの多発生圃場が認められる。圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期からの防除を徹底するとともに、その後も発生が認められる圃場では定期的に防除を行う。 ミカンキイロアザミウマについては、キクえそ病・茎えそ病のウイルスを媒介するため、発生初期からの防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取る。					
2. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ） 野菜・花き共通項目（P2）を参照。					
3. 白さび病 夜間にハウスを閉め込む11月頃から発生する。発病後の防除は難しいため、発生前から薬剤を定期的に散布する。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 5 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 11 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 28 年 10 月 25 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 11 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (12.9℃)	30	並
降水量	40	40 (75.9 mm)	20	やや少ない

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

1. 網斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 28年産での発生の現況

①巡回調査(平成28年5月6日調査)

発生茎率：100%（平年77.6%、前年55.0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病は、種子伝染が主体であるため、健全種子を使用する。

(2) トリフミン水和剤あるいはヘルシードT水和剤による種子消毒を徹底する。

コムギ

1. シロトビムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 28年産小麦での発生の現況（図1参照）

発生圃場率1.4%（平年5.1%、27年産2.7%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 播種時期は遅くならないようにする。

(2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。

(3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。

(4) その他防除対策については、特記事項を参照する。

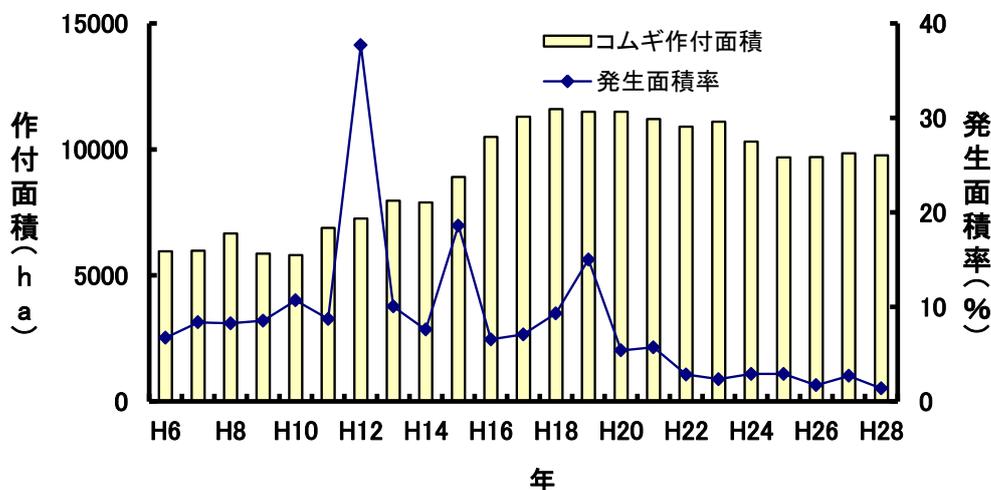


図1 シロトビムシ類のコムギでの発生面積率の年次推移

イチゴ（本圃）

（巡回調査 12 圃場、
調査日：10月17日～20日）



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年7.1%、前年2.3%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - ②病害虫防除員による調査（6圃場）
2圃場で発生確認、発生株率は4.7%（±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
 - (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。
 - (3) その他は特記事項を参照。

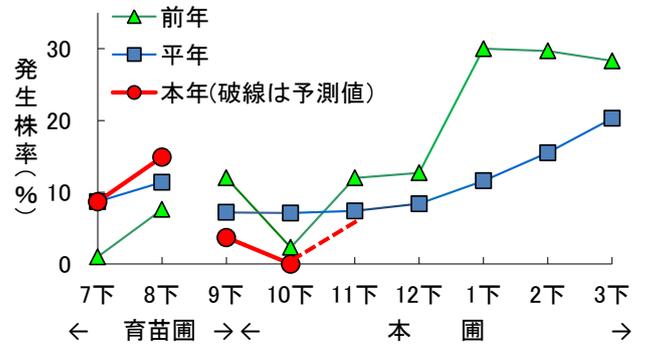


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：2.7%（平年10.1%、前年5.0%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - ②病害虫防除員による調査（6圃場）
1圃場で発生確認、発生株率は4.0%（-～±）
 - (2) 11月の気象予報
降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 開花時の薬剤散布は、奇形果の発生が多くなるので避ける。
 - (2) その他は特記事項を参照。

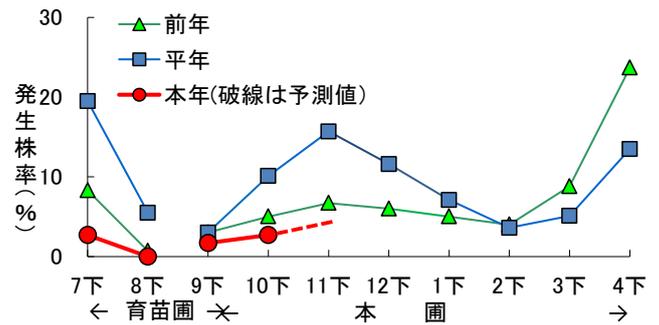


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：2.3%（平年1.5%、前年0.3%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）
 - ②病害虫防除員による調査（6圃場）
発生を認めなかった（-～±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

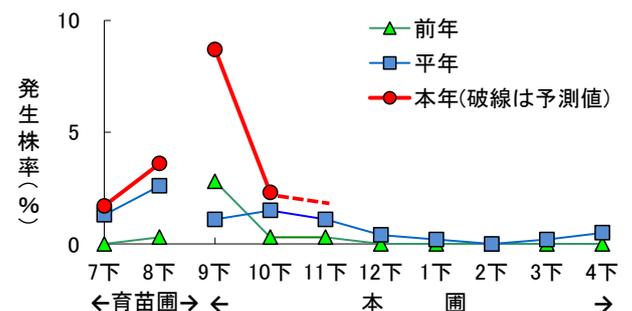


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

トマト

巡回調査 (6 圃場)
10月19~21日

1. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い (前年並)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査 (図1 参照)
発生株率：5.0% (平年5.5%、前年0%)
平年比：並(±) 前年比：やや多(±~+)
 - ②病害虫防除員調査 (6 圃場)
4 圃場で発生確認、発生株率は18.3% (+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

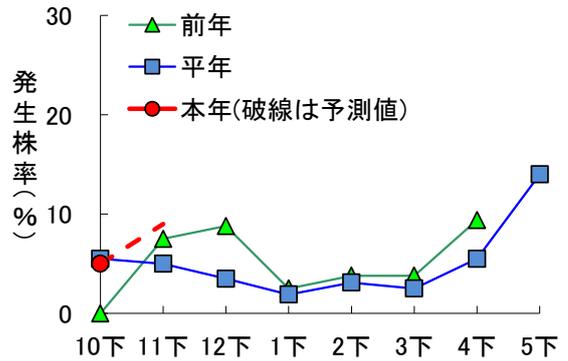


図1 コナジラミ類の圃場での発生推移

2. ハモグリバエ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況 (図1 参照)
 - ①巡回調査
被害株率：7.5% (平年10.6%、前年0.8%)
平年比：並(±) 前年比：並(±)
 - ②病害虫防除員調査 (6 圃場)
5 圃場で発生確認、発生株率は21.7% (±~+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。

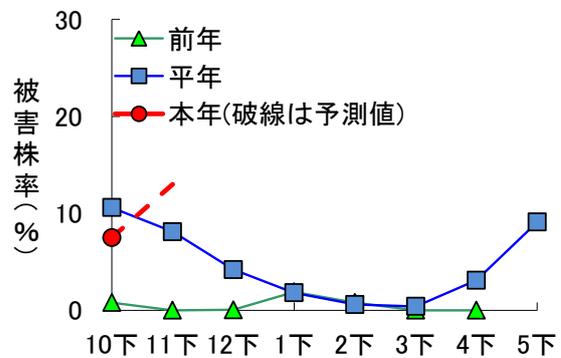


図1 ハモグリバエ類の圃場での発生推移

キュウリ (抑制)

巡回調査 (7 圃場)
調査日：10月19~20日

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並 (前年よりやや少ない)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査 (図1 参照)
発生株率：22.9% (平年20.6%、前年22.9%)
平年比：並(±) 前年比：並(±)
 - ②11月の気象予報
降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (-~±)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 過湿とならないように、加温機を活用し、湿度低下に努める。



巡回調査圃場の様子

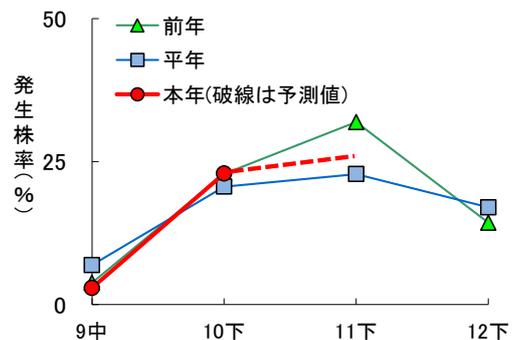


図1 キュウリべと病の発生推移

2. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：42.9%（平年16.2%、前年42.9%）
平年比：多〈+〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 11月の気象予報
降水量がやや少なく、やや少発生の条件〈-〜±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう注意する。

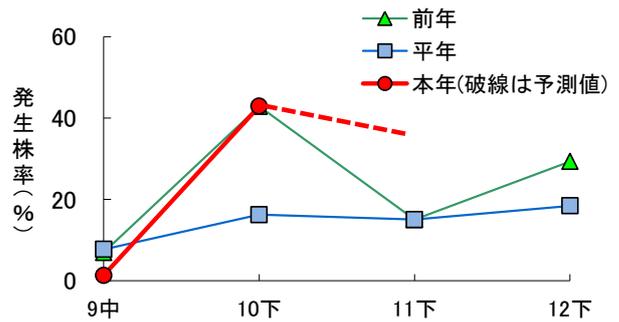


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：2.1%（平年2.5%、前年2.1%）
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

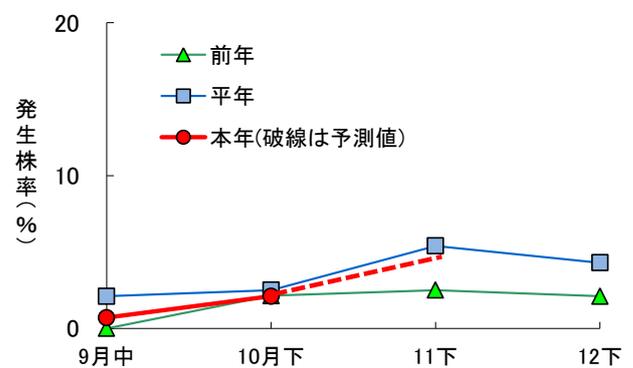


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：6.4%（平年15.5%、前年6.4%）
平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

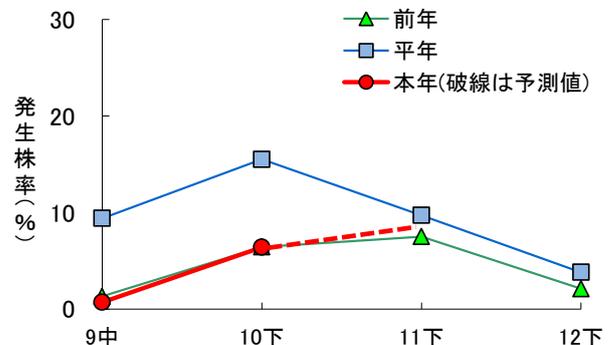


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

ナス（促成）

巡回調査 10月19日～21日

1. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率28.6%（平年21.5%、前年15.6%）
平年比：やや多〈±〜+〉 前年比：やや多〈±〜+〉



巡回調査圃場の様子(ナス)

②病害虫防除員調査 (6圃場)

発生株率：6.7% (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部を防虫ネット等で被覆し、ハウスへの侵入を防止する。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

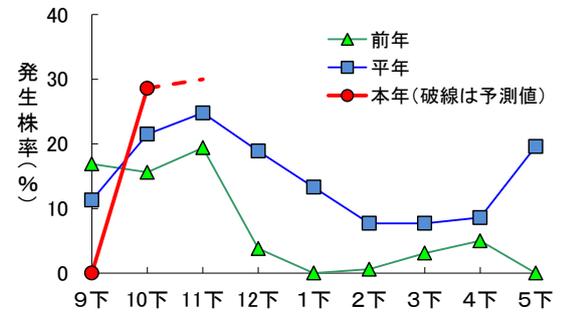


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 47.9% (平年 51.8%、前年 39.4%)
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

②病害虫防除員調査 (6圃場)

発生株率：22.5% (一)

3) 防除上注意すべき事項

アザミウマ類の項目と同様。

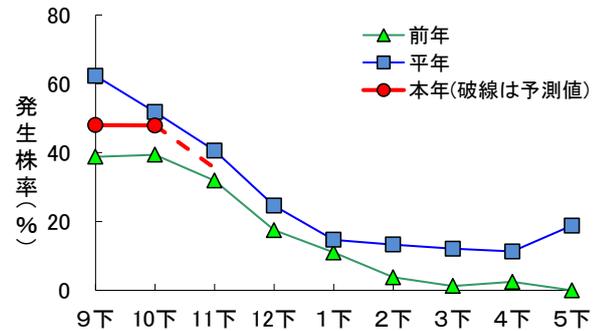


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

3. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

被害株率 4.3% (平年 24.9%、前年 2.5%)
 平年比：少 (一) 前年比：並 (±)

②病害虫防除員調査 (6圃場)

被害株率：20.0% (±)

3) 防除上注意すべき事項

アザミウマ類の項目と同様。

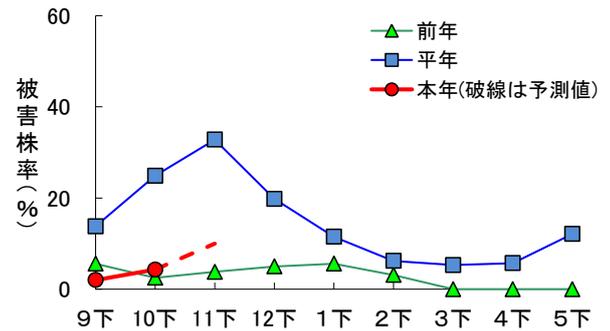


図1 ハモグリバエ類のナスでの被害株率の推移

タマネギ

巡回調査 (16圃場)

10月20日

1. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 11月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 育苗期から防除を徹底する。



巡回調査の圃場の様子

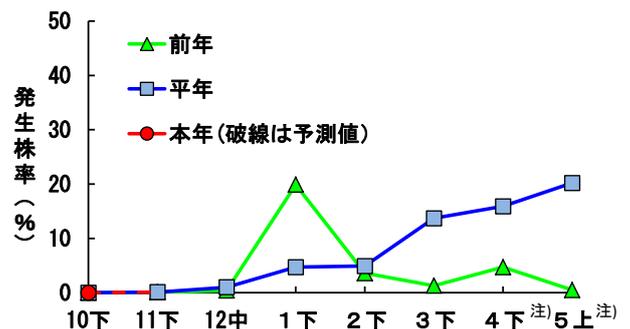


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
 注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

2. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：**平年並**（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年0.3%、前年0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本圃へ本虫を持ち込まないよう、苗床での防除を徹底する。

(2) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤のかけむらがないように散布する。

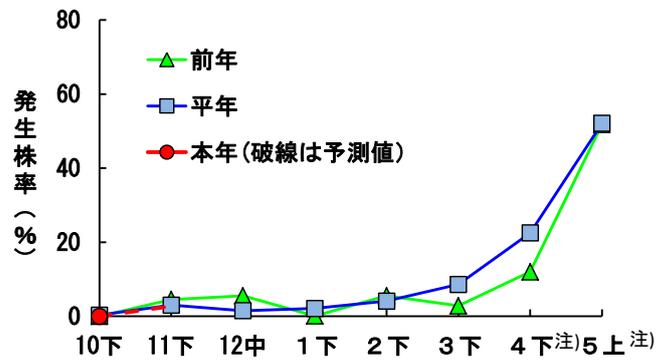


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

野菜・花き共通

1. チョウ目害虫（ハスモンヨウ、材バコガ）

1) 予報の内容

発生量：**平年より多い**（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1～3参照）

イチゴにおける被害株率：10.3%（平年8.3%、前年1.3%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

アスパラガスにおける被害株率：0%（平年2.4%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

ナスにおける被害株率：7.1%（平年13.0%、前年2.5%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

②フェロモントラップによるハスモンヨウ及びオオタバコガの10月の誘殺数は、平年よりやや多い～多く推移している（図4～5）。（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場毎の発生状況を確認し、若齢幼虫期に防除する。

(2) その他については、特記事項を参照。

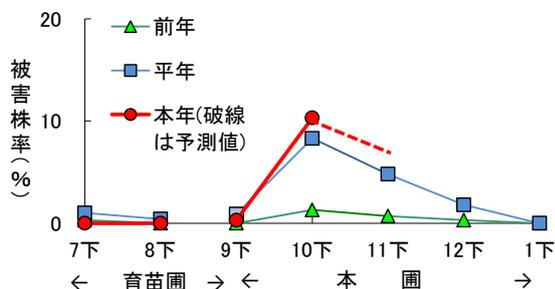


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

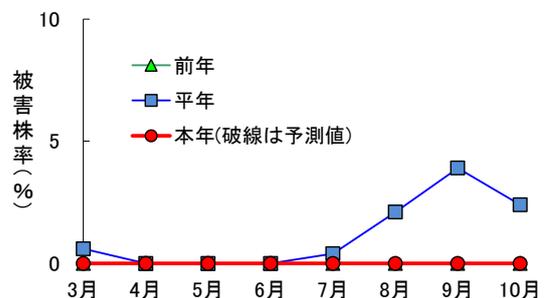


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの被害株率

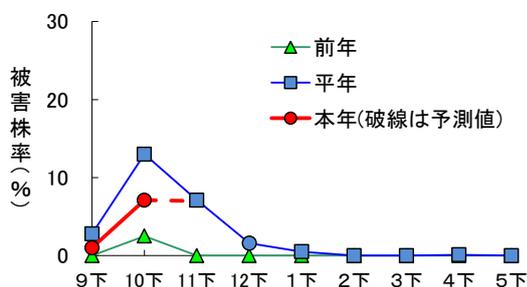


図3 チョウ目害虫によるナスの被害株率の推移

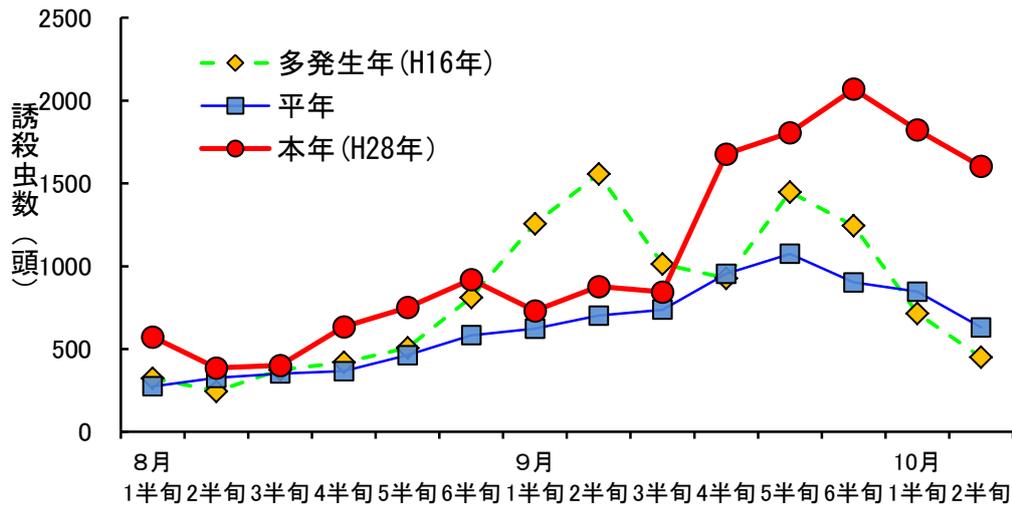


図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。)

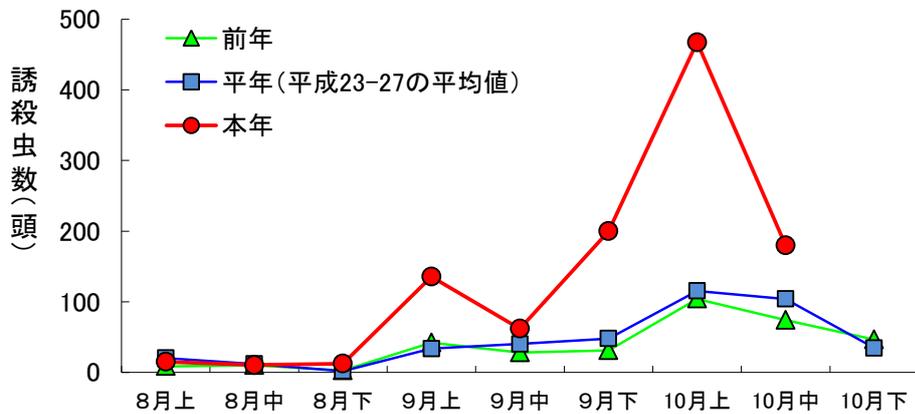


図5 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

キク

巡回調査 10月19日～21日



巡回調査圃場の様子(キク)

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 11月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件(一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) 施設内が多湿にならないように換気を図る。

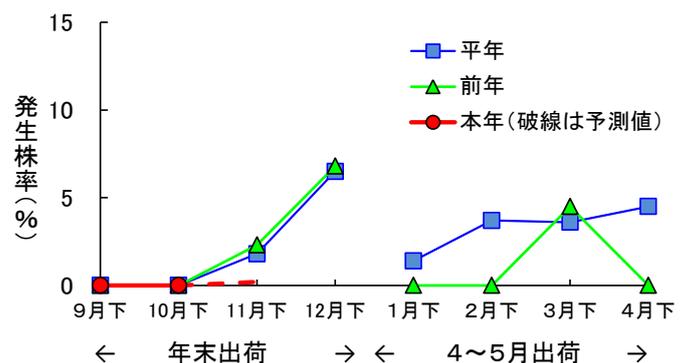


図1 キク白さび病の発生推移

(3) その他については、特記事項参照。

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 6.8%（平年 3.5%、前年 8.5%）

平年比：やや多〈±〜+〉 前年比：やや少〈-〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

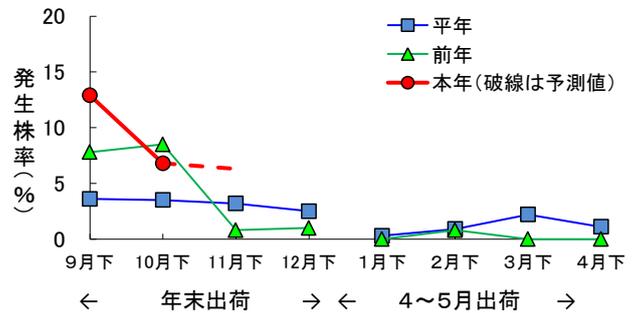


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査

発生株率 12.0%（平年 13.6%、前年 20.5%）

平年比：並〈±〉 前年比：やや少〈-〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

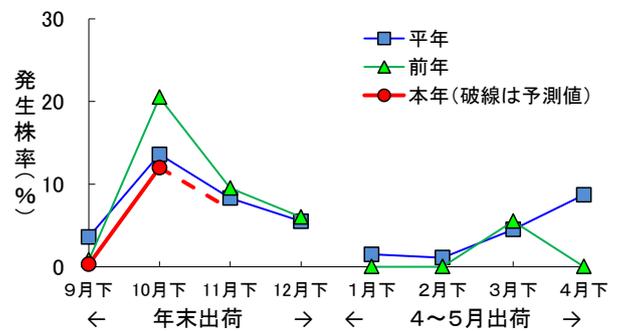


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

被害株率 0.8%（平年 2.0%、前年 0%）

平年比：やや少〈-〜±〉 前年比：並〈±〉

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜・花き共通の項目参照（P10）。〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

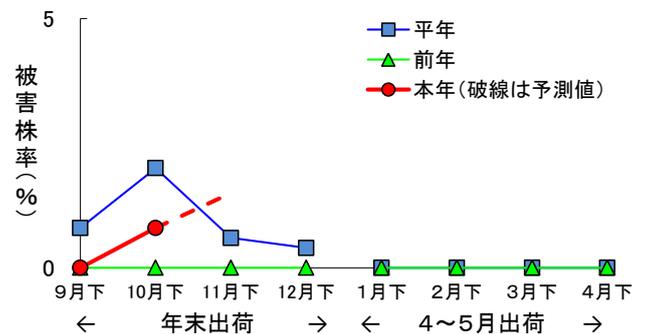


図1 チョウ目害虫のキクでの被害株率の推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に9月24日～10月25日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
水稲	トビイロウンカ	10/6 佐賀県			
大豆・野菜類・ 花き類・果樹類	ハスモンヨトウ	9/28 佐賀県			
トマト	黄化葉巻病	10/5 熊本県			
	灰色かび病			10/3 岐阜県	
エンドウ	ウラナミシジミ			10/25 和歌山県	
果樹	カメムシ類	10/3 長崎県		10/17 徳島県	
カキ	炭疽病			9/28 香川県	

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元	
野菜	ナス	ヒメジュウナガカメムシ	9/30 京都府
		トビイロシワアリ	9/30 茨城県
	ニラ	カンザワハダニ	9/30 高知県
	ハウレンソウ	べと病	10/3 岐阜県
	トマト	フザリウム株腐病	10/12 福岡県
	サツマイモ	ヨツモンカメノコハムシ	9/28 大分県
			10/12 高知県
	ショウガ	青枯病	10/17 和歌山県
	ニガウリ	アシビロヘリカメムシ	10/20 徳島県
	メボウキ (バジル)	べと病	9/30 栃木県
コリアンダー (パクチー)	褐斑病（仮称）	10/19 大分県	
茶	チャトゲコナジラミ	10/20 愛媛県	

農薬の適正使用を徹底しましょう！

- ◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。
- ◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。
- ◎防除器具は十分洗浄しましょう。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 5297 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp